

報告事項 ウ

平成20年度第3回教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について

平成20年度第3回教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について、別紙のとおり報告します

平成20年12月18日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

平成20年度第3回教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について

家庭・地域教育課

1 日時 平成20年12月3日(水) 午後1時30分～3時30分

2 場所 県庁 第2庁舎 第33会議室

3 出席者 委員12名、事務局15名

4 議事及び審議等の結果

(1) 分科会長の選任

油野委員を会長に、小谷委員を職務代理者に決定

(2) 平成21年度社会教育関係団体及びスポーツ関係団体への助成について

・提案のとおり承認

(3) 鳥取県スポーツ振興計画について

・スポーツ振興計画(案)について協議

・今後のスケジュール等を説明

・事務局で意見集約の上、2月下旬に開催予定の次回生涯学習分科会に最終案を提出

(4) 鳥取県教育振興基本計画について

・鳥取県教育振興基本計画(案)について協議

・事務局で意見集約の上、次回分科会に案を提出

(5) 報告事項

公民館振興プラン、子どもの読書活動推進ビジョンの改訂等について報告

5 委員からの主な意見

【鳥取県スポーツ振興計画について】

- ・健康づくりの推進として、職場における健康づくり、運動・健康に対する意識改革が追加されており、良くなった。
- ・スポーツを大事にするあまり、地域の子ども会等の行事よりスポーツ少年団活動を優先するなど、地域での活動が疎かになっている。
- ・現在の成績が厳しい中、国体での総合順位30位台という具体的指針(目標)を記載することについて違和感がある。
- ・スポーツ少年団活動は行き過ぎている面がある。毎月第3日曜日の家庭の日は地域ボランティア等の日とするなど、県全体で考えてはどうか。
- ・競技に負けたときの視点が日本の教育から抜けていた。鳥取県版として、負けて学ぶということの記述があっても良いのでは。
- ・強くして欲しいと願う保護者も多くいる。指導者と保護者と地域(学校)で話し合い、連携することが必要である。
- ・地域活動、公民館活動、文化活動とのバランスを取るということを具体的に記載してはどうか。

- ・学校体育施設環境の充実と開放促進の箇所に、パートナーシップという言葉復活させて欲しい。学校と地域は連携しなければならない。
- ・総合型地域スポーツクラブの支援には、県だけではなく市町村教育委員会を巻き込んで取り組んでいくことも必要ではないか。
- ・競技スポーツの振興には、県民の理解と応援という観点が必要。
- ・メディアと連携し、勝つためのプロセスを紹介することも必要である。

【鳥取県教育振興基本計画について】

- ・県の他の部所と連携して、お父さんが教育に関わるしくみができないか。
- ・家庭で子育てをしているお父さんお母さんへの情報提供の在り方を考えていくべき。
- ・原点は家庭教育。
- ・祖父母には、育てた我が子が一人前の親になるまで頑張ってもらいたいと感じている。
- ・親の体験が足りないため、子どもに体験学習が必要なことが理解できない。
- ・就学前の勉強が大事である。
- ・平和教育の記載がない。戦争の悲惨さを伝えたい。
- ・個人情報の取扱いには十分注意されたい。
- ・小学校への個人情報の伝達にあたっては、先入観を持たないよう指導して欲しい。
- ・本物の芸術に触れる機会を増やせないか。

【参考】

委員名簿

氏名	所属・職名等
浅川 滋男	鳥取環境大学環境情報学部教授
油野 利博	鳥取大学地域学部教授
石浦外喜義	鳥取城北高等学校教諭
井上 耐子	鳥取県連合婦人会長
入江 雅史	大山町教育委員会幼児教育課主幹兼社会教育主事
梅木千賀子	鳥取県体育指導委員協議会理事
小谷 次雄	倉吉市成徳公民館長
田中 陽子	社団法人鳥取県老人クラブ連合会女性委員会委員
土海 孝治	倉吉市立小鴨小学校長
福浜 隆宏	日本海テレビジョン放送株式会社アナウンサー
松本加奈子	鳥取県教職員組合書記
水野 聖子	ガールスカウト日本連盟鳥取県支部長
美田耕一郎	鳥取県子ども会育成連絡協議会副会長
山田 節子	児童書を楽しむ会「つくしんぼ」代表

(欠)

(欠)

事務局

次長、教育総務課、家庭・地域教育課、体育保健課、スポーツセンター